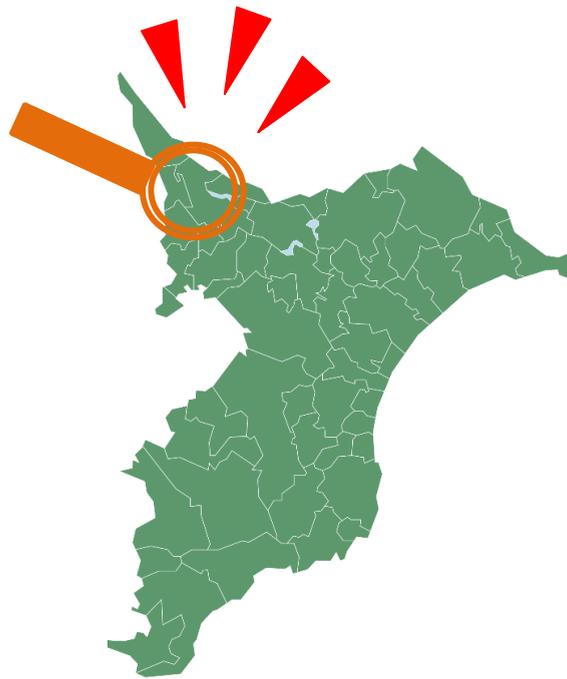


2023・5

# 柏の景気情報

令和5（2023）年5月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

# 柏の景気情報 (令和5年5月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

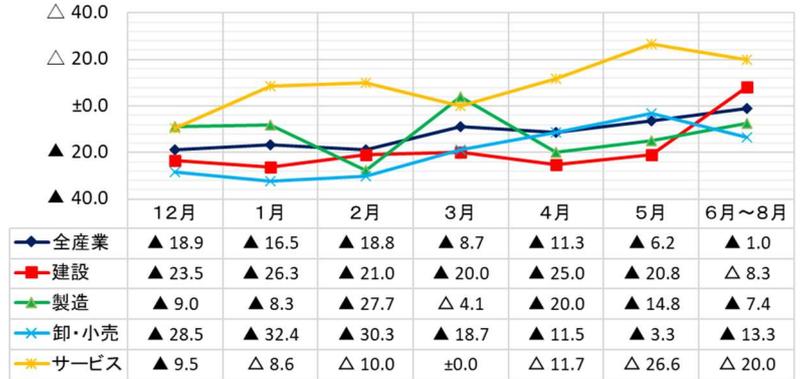
回答期間: 令和5年5月23日～令和5年6月5日 調査対象: 柏市内141事業所及び組合にヒアリング、回答数96

### コロナ5類移行による活動回復で全業種DI改善。一方で、原材料・エネルギー価格・人件費の高騰による収益圧迫は継続

5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.2(前月水準▲11.3)となり、マイナス幅が5.1ポイント縮小した。

DI値はすべての業種で改善した。建設業では少しずつ受注が増加してきているが人手不足で受注機会の損失が懸念される声が聞かれた。製造業では、自動車関連を中心に売上が回復するも原材料の値上げ等により採算としては悪化傾向に。卸・小売業とサービス業からは行動制限のない大型連休やコロナ5類移行に伴い、国内外からの需要もあり客足が回復している声が聞かれた。全業種に共通して、原材料やエネルギー価格、人件費高騰への意見が多数寄せられた。

柏の景気情報・産業別業況DI



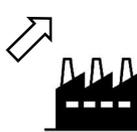
## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



### 建設業

「材料費高騰が続き、これ以上の値上げ前に工事を発注しようとする方が増加しているように感じる」(塗装工事)、「輸出業のため、世界的な金利上昇に影響を受ける」(電気工事)、「量小物販売は好調だが、量工事受注が相変わらず少ない」(量工事請負・量製造販売)、「仕事の依頼はあるが、従業員不足により受けきれない。仕入単価は上がり続けているため、利益は無いに等しく受注先に単価の値上げを依頼するも良い返事は戻ってこない」(とび)



### 製造業

「コロナ禍、半導体不足、原材料や電気料金の高騰など負の要因が重なり、依然として苦しい経営状況が続いている」(電子応用装置製造)、「半導体不足の影響が一部では改善傾向にあるものの未だ解消に至っていないものが多く、原材料の値上げ等があり採算としては悪化傾向にある」(その他の機械・同部品製造)、「単発的な受注ではあるが、久しぶりに好転した月だった」(印刷)、「売上は前年より良かったが、GWを前に売上が急激に鈍った。4月から多くの商材が値上げとなったため、買い込みもあり売上が低迷した」(自動車付属品製造)



### 卸・小売業

「原材料高騰に歯止めがかからず、これ以上価格に転嫁できず苦しい状況」(洋菓子店)、「旅行や外出関連は好調。移動が可能になった為なのか、母の日は配送ギフトが減少。電気代の高騰により厳しい状況は変わらない」(大型小売店)、「行楽需要のアパレルや旅行関連、店内軽飲食などは、GWが好天であったことやコロナ5類への引き下げが後押しとなり好調に推移」(百貨店)、「すべてが値上がりしているため価格改定を随時行っているが、決算までの着地点を修正しながら動かないといけな。価格だけの価値にとらわれず継続的な商売を心掛けたい」(食料卸売)、「売上は上がっているが、主原料の値上げが痛い」(洋菓子店)



### サービス業

「コロナ5類移行で、大人数での歓送迎会增加。食材の仕入や電気代の高騰が続いているため、販売価格も値上げせざるを得ない状況」(飲食店)、「夏期講習の募集が始まるが、光熱費、教材費、人件費の上昇分を価格転嫁したため、在塾生の受講率や外部からの問い合わせに影響が出ることが心配」(学習塾)、「収益物件の大規模修繕を実施し相応の出費となる、契約を見直し今後は増益の見通し」(不動産賃貸・管理)

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲6.2に対し、「CCI-LOBO」が▲6.2で、変わらなかった。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業と全業種である。

# 今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
<b>業況DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 6.2	 ▲ 20.8	 ▲ 14.8	 ▲ 3.3	 26.6
CCI-LOBO	 ▲ 6.2	 ▲ 17.0	 ▲ 9.2	 ▲ 13.8	 11.9
<b>売上DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 5.2	 ▲ 25.0	 ±0.0	 13.3	 46.6
CCI-LOBO	 5.7	 ▲ 13.6	 9.9	 ▲ 3.8	 21.6
<b>採算DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 15.6	 ▲ 41.6	 ▲ 22.2	 ▲ 16.6	 40.0
CCI-LOBO	 ▲ 12.3	 ▲ 26.0	 ▲ 14.2	 ▲ 16.4	 1.9
<b>仕入単価DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 65.6	 ▲ 45.8	 ▲ 85.1	 ▲ 70.0	 ▲ 53.3
CCI-LOBO	 ▲ 70.4	 ▲ 76.8	 ▲ 73.3	 ▲ 68.4	 ▲ 66.5
<b>従業員DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 17.7	 29.1	 ±0.0	 20.0	 26.6
CCI-LOBO	 23.2	 33.7	 16.0	 16.6	 31.7
<b>資金繰りDI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 15.6	 ▲ 25.0	 ▲ 18.5	 ▲ 20.0	 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 10.6	 ▲ 8.0	 ▲ 13.1	 ▲ 14.3	 ▲ 6.4

# CC I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測(5月速報)

調査期間：2023年5月16日～22日

調査対象：全国の329商工会議所が2,508企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、5類移行による活動回復で3か月連続改善。先行きは、物価高や人手不足等で厳しい見方続く

5月の全産業合計の業況DIは、▲6.2と、前月から+4.9ポイントの改善。行動制限のない大型連休に加え、コロナの5類移行による消費マインドの改善、インバウンド・国内観光需要の回復で、飲食・宿泊関連のサービス業、百貨店・土産品販売等の小売業で改善した。また、製造業では、底堅い国内の設備投資需要の下支えで改善し、卸売業でも製造・小売・サービス業からの引き合い増加で改善した。建設業でも、政府の補正予算による公共工事の受注増で改善した。原材料・エネルギー価格の高騰や人材確保に向けた賃上げ等のコスト負担増、需要回復に伴う人手不足、価格転嫁が十分に追い付いていない等、経営の重荷は多いが、経済活動のさらなる回復で、中小企業の業況は改善が続いている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲9.5（今月比▲3.3ポイント）と悪化を見込む。個人消費の拡大や観光需要の回復、企業の設備投資の増加等、経済活動の一層の改善が期待される一方、需要増に人材確保が追いつかず、受注機会の損失が懸念される。また、原材料・エネルギー価格の高騰継続によるコスト負担増や、コスト増に見合う価格転嫁が十分に追い付いていない中、海外経済の鈍化による外需停滞懸念など、中小企業の先行き不安は根強く、厳しい見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、すべての業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「受注数の増加に伴い、人手不足解消に向けて積極的に人材採用を実施。確保できた人材の定着・育成に向けて、賃金の引き上げや技術の承継を図っている。これにより、コスト負担は増加しているものの、販路拡大に努めるとともに、補助金の活用等も行っていく」（大工工業業）「2024年の働き方改革関連法の施行に向け、就業規則の改訂など、対応を進めている」（舗装工事業）

しかしながら、電気代や梱包資材の価格高騰による収益の圧迫は続いており、経費の削減にも限界があるため、設備投資による生産性向上を図っていきたい」（一般機械器具卸売業）「取引先の事業拡大に伴い、売上増加が見込まれているが、同業他社が値上げを実施していないため、価格転嫁を行えていない」（食料・飲料卸売業）

【小売業】「インバウンド需要が回復し、外国人観光客による売上の増加は継続している。一方で、物価高・電気代の高騰による地域顧客の購買意欲は低下しており、十分な回復には至っていない」（百貨店）「大型連休や5類への移行に伴い、観光客が増加し、地域の特産物の売上が増加。今後のさらなる需要拡大を期待する」（食料品小売業）

【製造業】「コロナの5類への移行で、消費者の意識も改善に向かっており、飲食店などの顧客からの受注が増加している。今後はインバウンド関連や観光地における市場の変化に適正に対応し、売上増加を目指していく」（パン・菓子製造業）「受注はあるが、人手不足で生産が追いついていない。コストの上昇も早く、価格転嫁も遅れており、収益を圧迫している」（自動車・付属品製造業）

【卸売業】「経済活動が活発化してきており、国内企業を中心に受注は増加している。」

【サービス業】「行動制限のない大型連休やコロナの5類への移行により、大人数の宴会も増加傾向。コロナ禍で始めたテイクアウト・デリバリー事業も好調であるため、両輪で売上の確保、収益向上に努めていく」（飲食店）「国内外を問わず、

観光客の増加で売上は戻りつつある。この需要増を逃さないよう人材確保を進めているが、芳しくない状況が続いている」（遊園地）

### 全国・産業別業況DIの推移

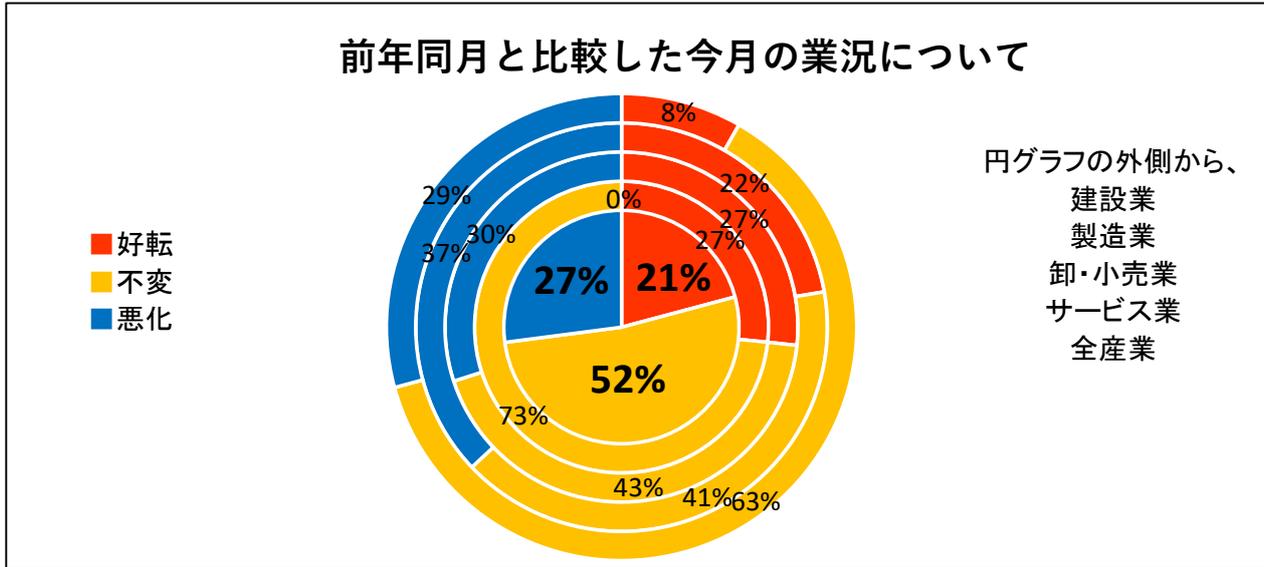
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
12月	▲18.4	▲27.2	▲14.2	▲16.3	▲32.1	▲7.0
1月	▲18.4	▲25.1	▲16.9	▲17.3	▲27.1	▲8.8
2月	▲19.4	▲31.9	▲18.4	▲16.4	▲25.9	▲8.6
3月	▲14.8	▲24.5	▲18.9	▲22.4	▲19.5	△2.8
4月	▲11.1	▲23.1	▲13.9	▲15.0	▲15.9	△5.6
5月	▲6.2	▲17.0	▲9.2	▲11.0	▲13.8	△11.9
見通し	▲9.5	▲15.8	▲12.5	▲16.9	▲16.2	△6.2

# 令和5年（2023年）5月の動向

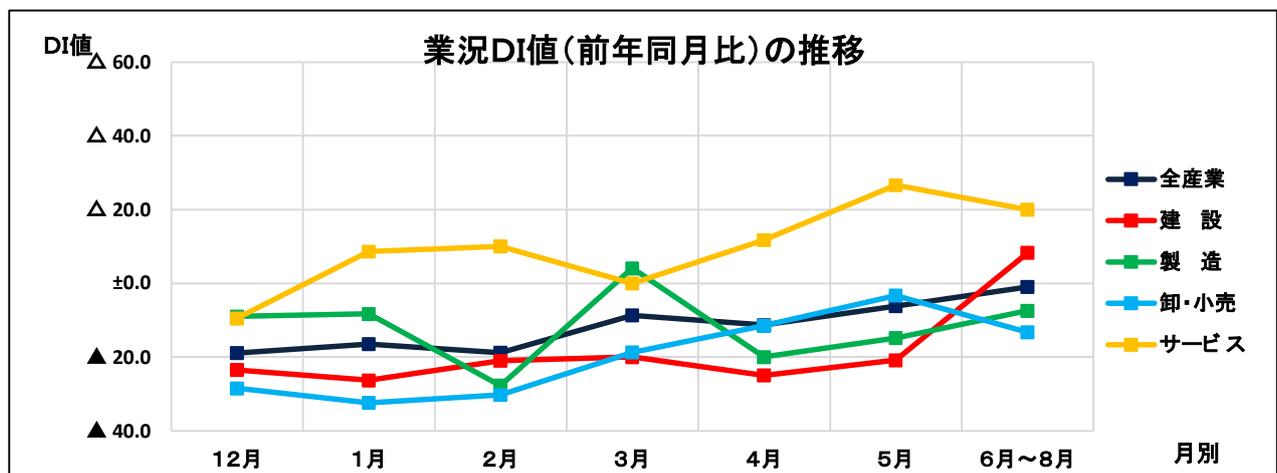
## 【業況について】

- 5月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲6.2（前月水準▲11.3）となり、マイナス幅が5.1ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（6月から8月）の先行き見通しについては、全産業では、▲1.0（前月水準▲12.6）となり、マイナス幅が11.6ポイント縮小する見通しである。



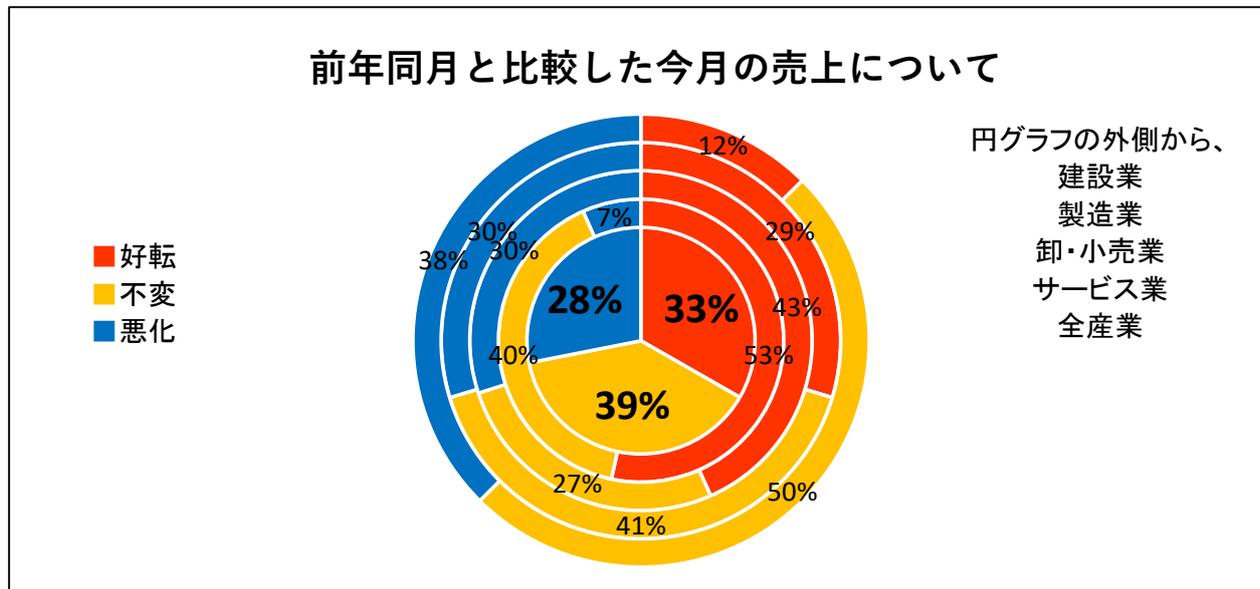
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年	令和5年					先行き見通し
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月～8月（5月～7月）
全産業	▲18.9	▲16.5	▲18.8	▲8.7	▲11.3	▲6.2	▲1.0（▲12.6）
建設	▲23.5	▲26.3	▲21.0	▲20.0	▲25.0	▲20.8	△8.3（▲12.5）
製造	▲9.0	▲8.3	▲27.7	△4.1	▲20.0	▲14.8	▲7.4（▲10.0）
卸・小売	▲28.5	▲32.4	▲30.3	▲18.7	▲11.5	▲3.3	▲13.3（▲26.9）
サービス	▲9.5	△8.6	△10.0	±0.0	△11.7	△26.6	△20.0（△5.8）



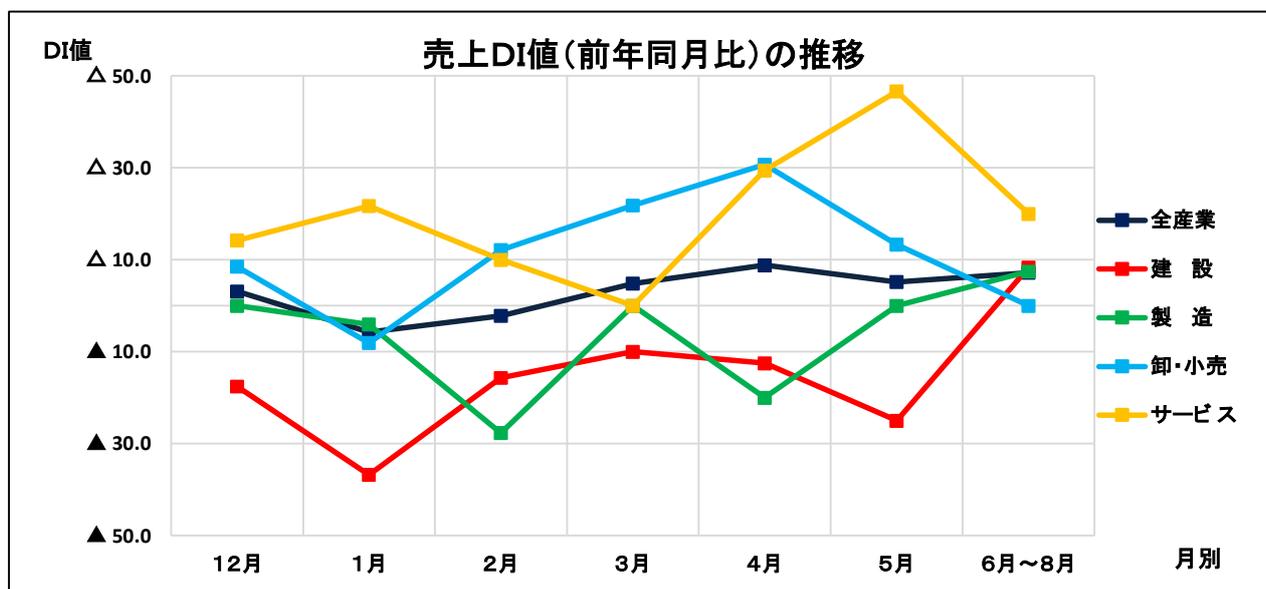
【売上について】

- 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△5.2(前月水準△8.8)となり、プラス幅が3.6ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、△7.2(前月水準±0.0)となり、プラス幅が7.2ポイント拡大した。



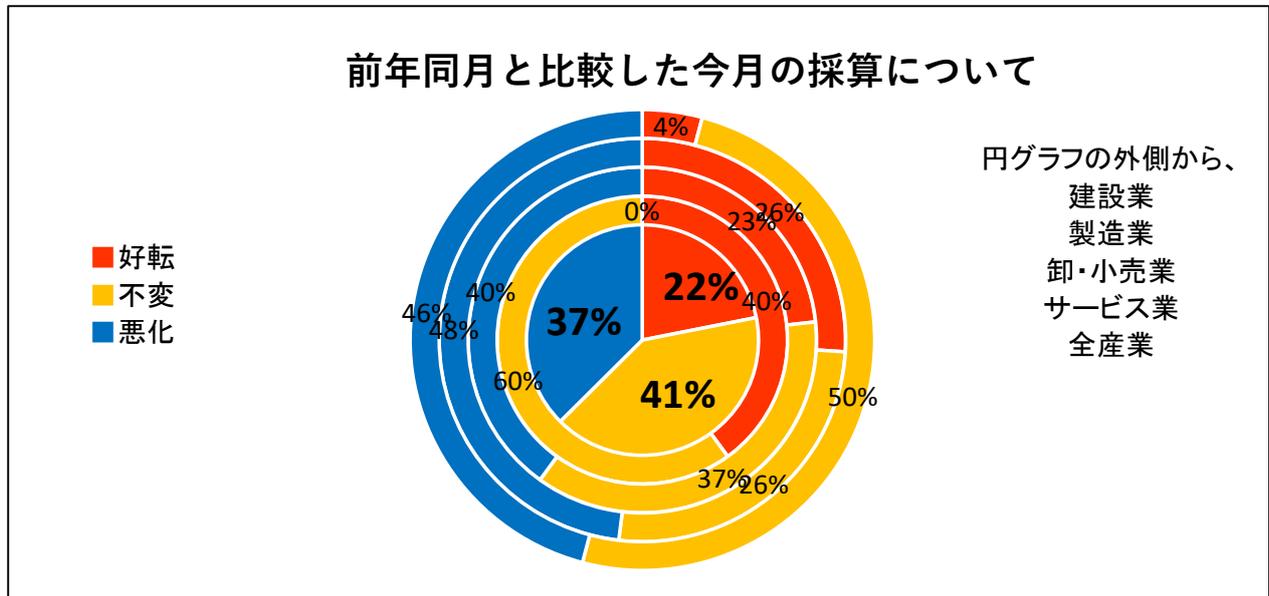
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和4年	令和5年						先行き見通し
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月~8月(5月~7月)	
全産業	△3.1	▲5.8	▲2.2	△4.8	△8.8	△5.2	△7.2(±0.0)	
建設	▲17.6	▲36.8	▲15.7	▲10.0	▲12.5	▲25.0	△8.3(▲6.2)	
製造	±0.0	▲4.1	▲27.7	±0.0	▲20.0	±0.0	△7.4(▲5.0)	
卸・小売	△8.5	▲8.1	△12.1	△21.8	△30.7	△13.3	±0.0(△3.8)	
サービス	△14.2	△21.7	△10.0	±0.0	△29.4	△46.6	△20.0(△5.8)	



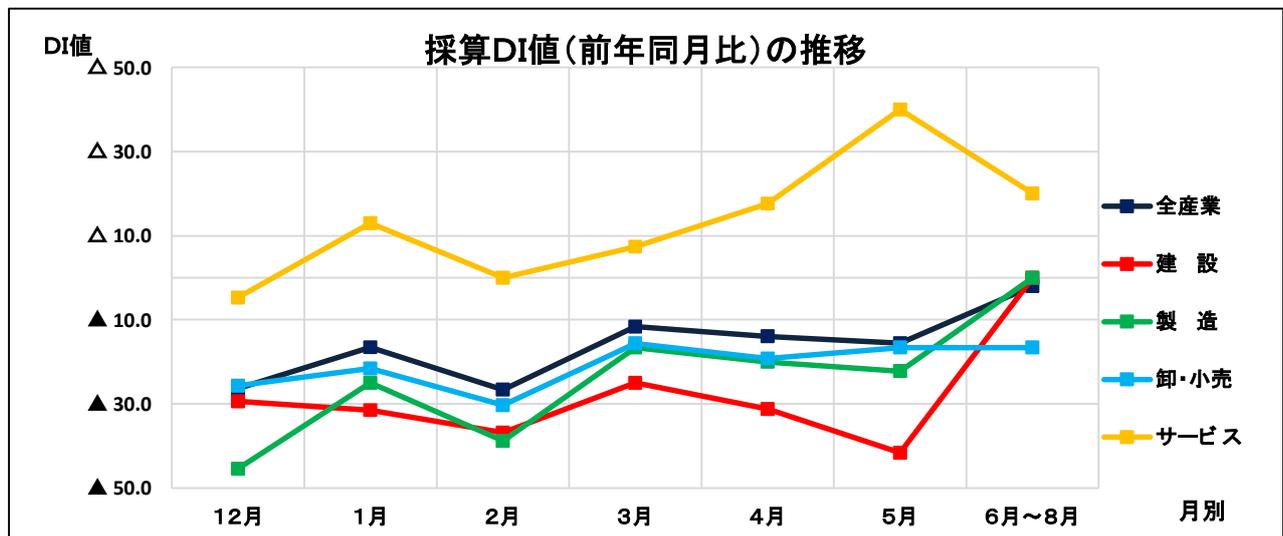
【採算について】

- 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.6(前月水準▲13.9)となり、マイナス幅が1.7ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.0(前月水準▲11.3)であり、マイナス幅が9.3ポイント縮小する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

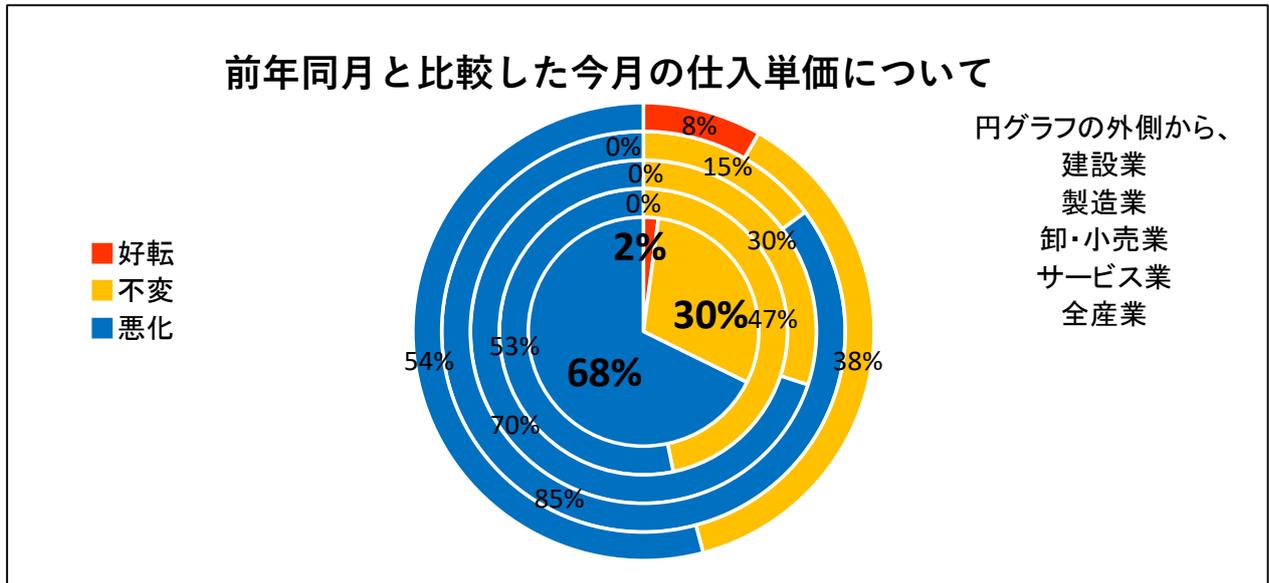
	令和4年	令和5年					先行き見通し
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月~8月(5月~7月)
全産業	▲26.3	▲16.5	▲26.6	▲11.6	▲13.9	▲15.6	▲2.0(▲11.3)
建設	▲29.4	▲31.5	▲36.8	▲25.0	▲31.2	▲41.6	±0.0(▲6.2)
製造	▲45.4	▲25.0	▲38.8	▲16.6	▲20.0	▲22.2	±0.0(▲10.0)
卸・小売	▲25.7	▲21.6	▲30.3	▲15.6	▲19.2	▲16.6	▲16.6(▲26.9)
サービス	▲4.7	△13.0	±0.0	△7.4	△17.6	△40.0	△20.0(△5.8)



【仕入単価について】

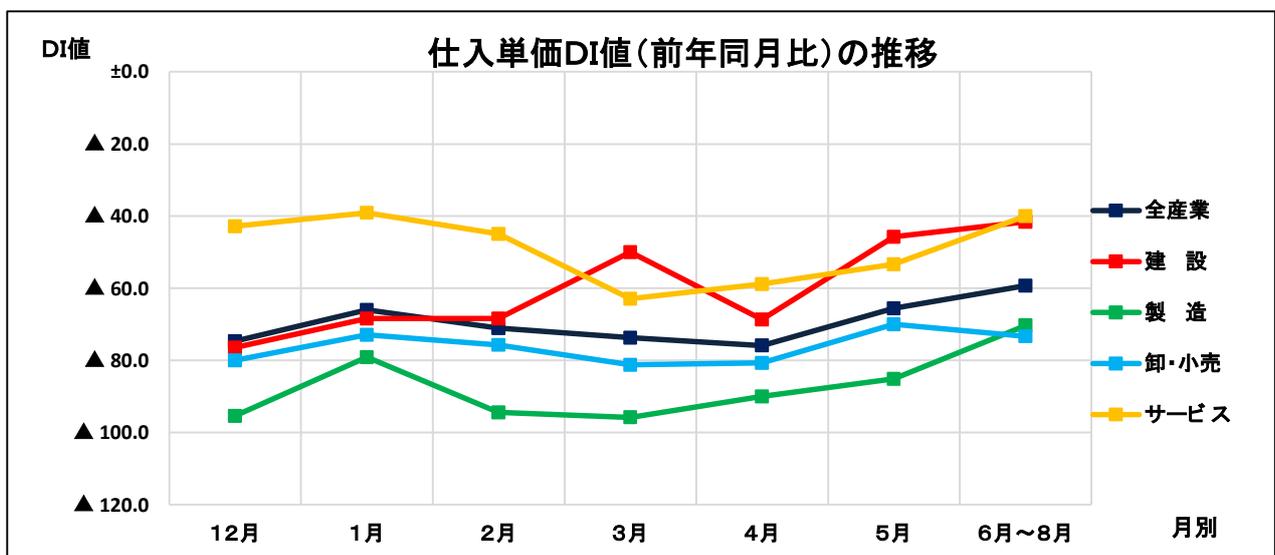
○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲65.6(前月水準▲75.9)となり、マイナス幅が10.3ポイント縮小した。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲59.3(前月水準▲56.9)となり、マイナス幅が2.4ポイント拡大する見通しである。



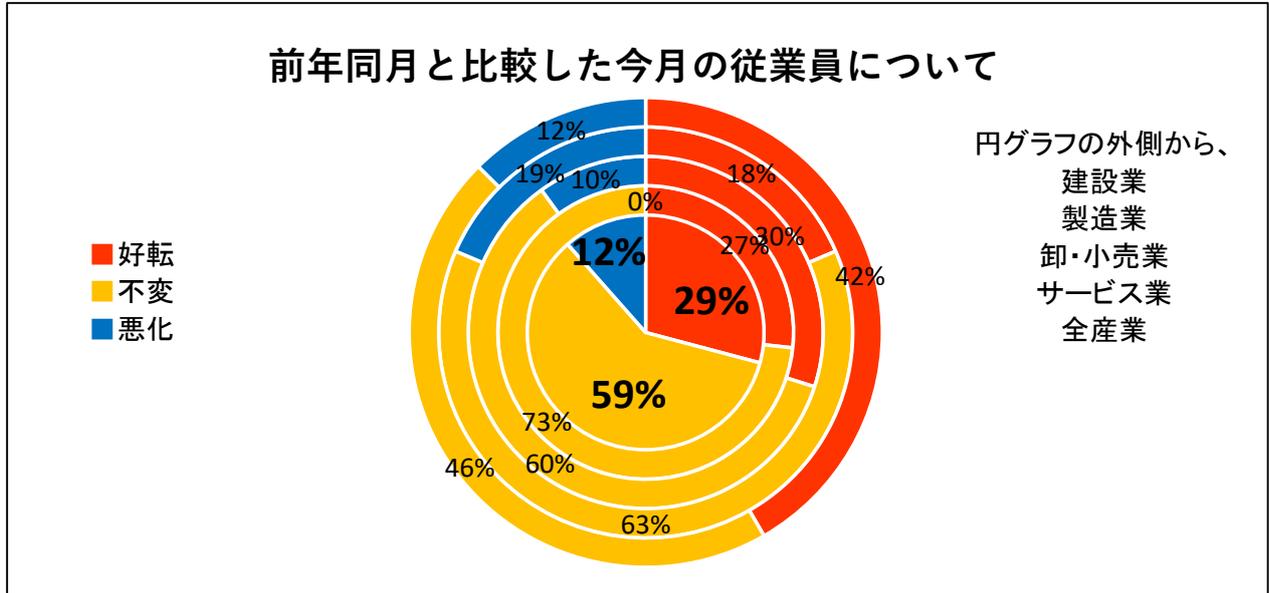
仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和4年	令和5年	2月	3月	4月	5月	先行き見通し
	12月	1月					6月~8月(5月~7月)
全産業	▲74.7	▲66.0	▲71.1	▲73.7	▲75.9	▲65.6	▲59.3(▲56.9)
建設	▲76.4	▲68.4	▲68.4	▲50.0	▲68.7	▲45.8	▲41.6(▲50.0)
製造	▲95.4	▲79.1	▲94.4	▲95.8	▲90.0	▲85.1	▲70.3(▲55.0)
卸・小売	▲80.0	▲72.9	▲75.7	▲81.2	▲80.7	▲70.0	▲73.3(▲76.9)
サービス	▲42.8	▲39.1	▲45.0	▲62.9	▲58.8	▲53.3	▲40.0(▲35.2)



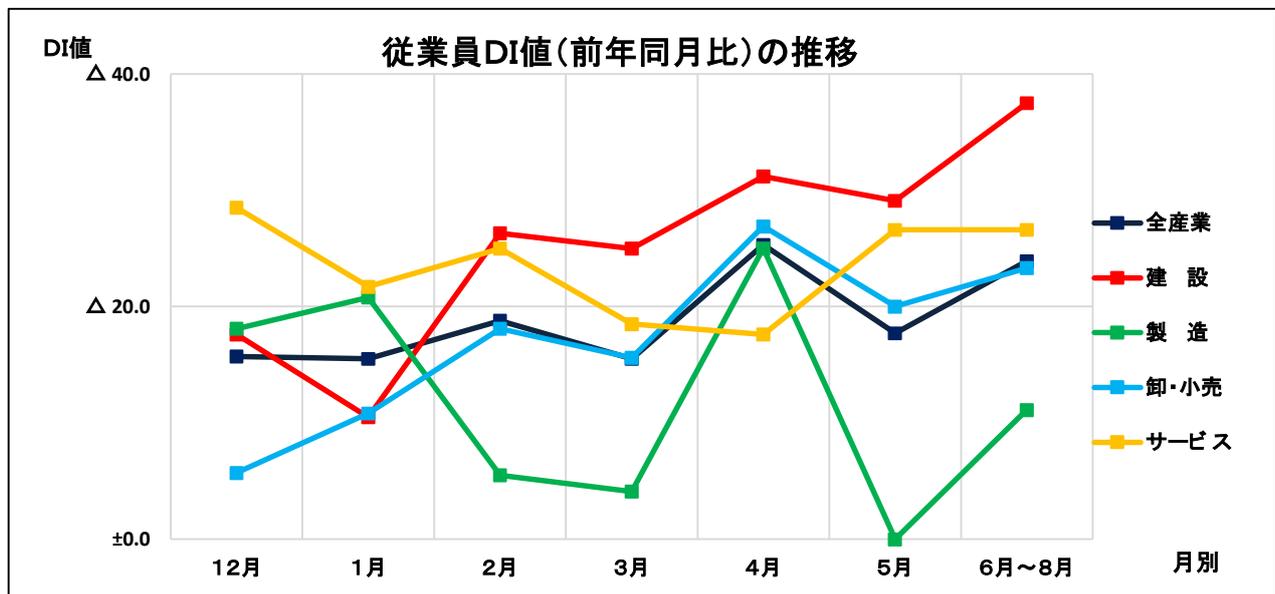
【従業員について】

- 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△17.7(前月水準△25.3)となり、プラス幅が7.6ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、△23.9(前月水準△27.8)となり、プラス幅が3.9ポイント縮小する見通しである。



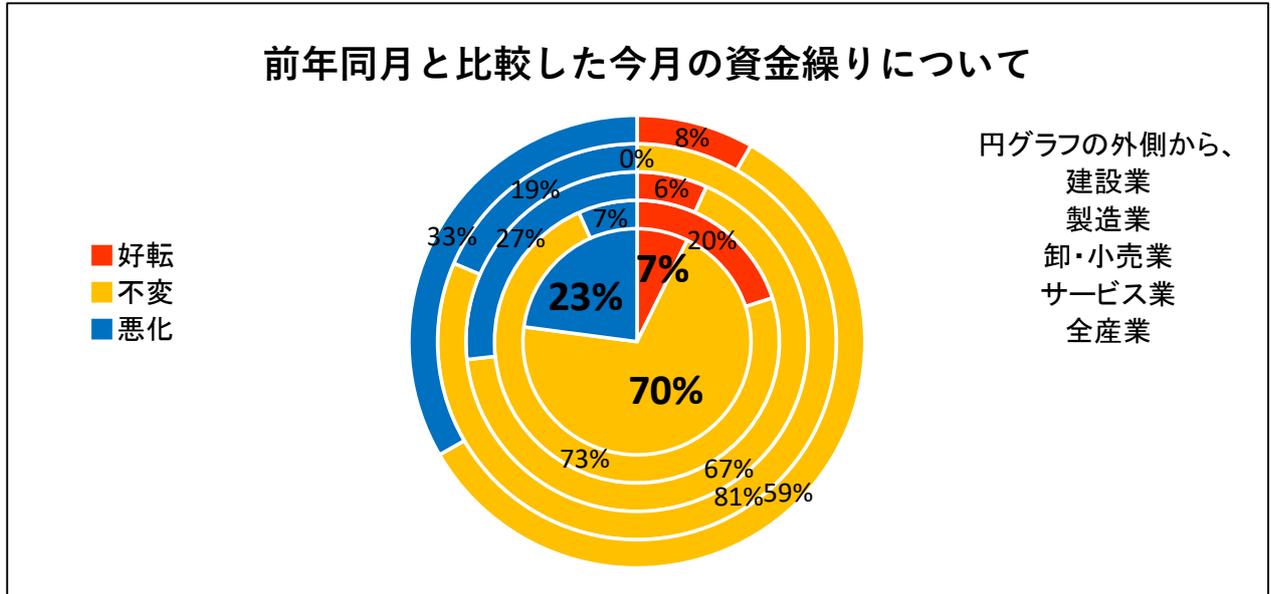
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和4年	令和5年	2月	3月	4月	5月	先行き見通し
	12月	1月					6月~8月(5月~7月)
全産業	△15.7	△15.5	△18.8	△15.5	△25.3	△17.7	△23.9 ( △27.8 )
建設	△17.6	△10.5	△26.3	△25.0	△31.2	△29.1	△37.5 ( △37.5 )
製造	△18.1	△20.8	△5.5	△4.1	△25.0	±0.0	△11.1 ( △25.0 )
卸・小売	△5.7	△10.8	△18.1	△15.6	△26.9	△20.0	△23.3 ( △23.0 )
サービス	△28.5	△21.7	△25.0	△18.5	△17.6	△26.6	△26.6 ( △29.4 )



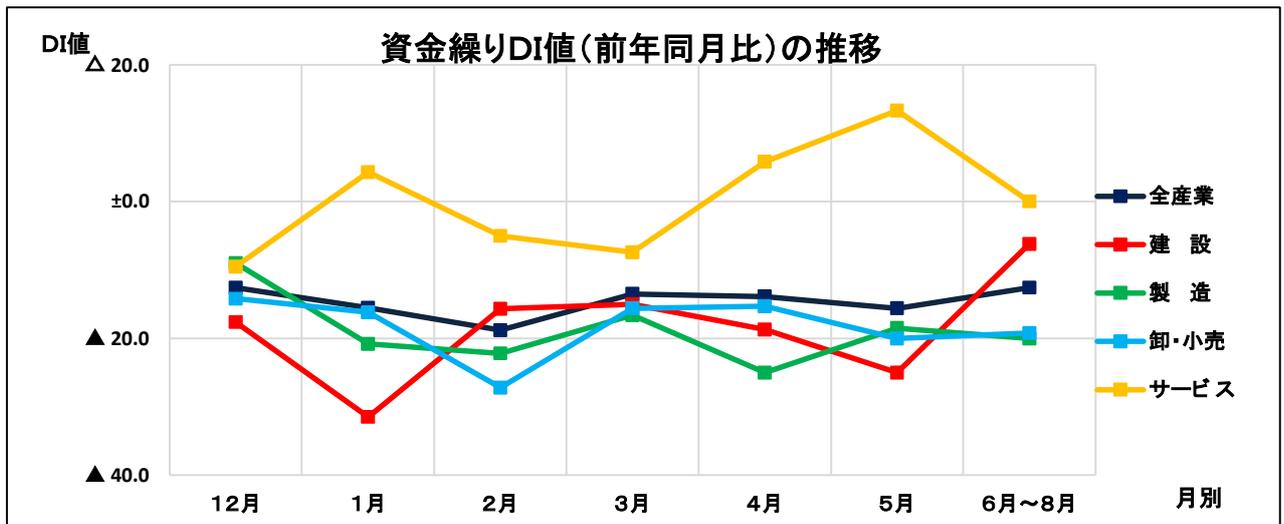
【資金繰りについて】

- 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.6(前月水準▲13.9)となり、マイナス幅が1.7ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.6(前月水準▲12.6)となり、変わらない見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年	令和5年	2月	3月	4月	5月	先行き見通し
	12月	1月					6月~8月(5月~7月)
全産業	▲12.6	▲15.5	▲18.8	▲13.5	▲13.9	▲15.6	▲12.6(▲12.6)
建設	▲17.6	▲31.5	▲15.7	▲15.0	▲18.7	▲25.0	▲6.2(▲6.2)
製造	▲9.0	▲20.8	▲22.2	▲16.6	▲25.0	▲18.5	▲20.0(▲20.0)
卸・小売	▲14.2	▲16.2	▲27.2	▲15.6	▲15.3	▲20.0	▲19.2(▲19.2)
サービス	▲9.5	△4.3	▲5.0	▲7.4	△5.8	△13.3	±0.0(±0.0)

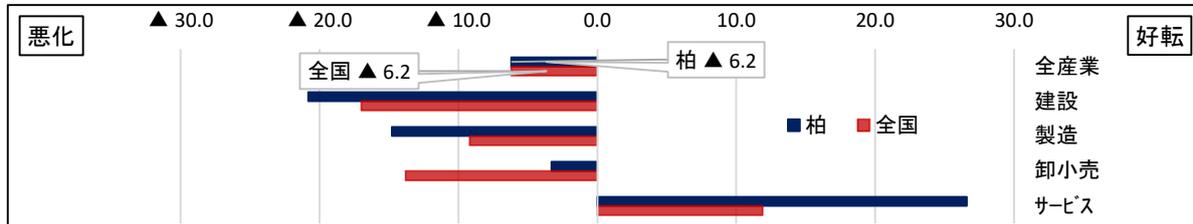


# 全国（CCI-LOBO）との比較

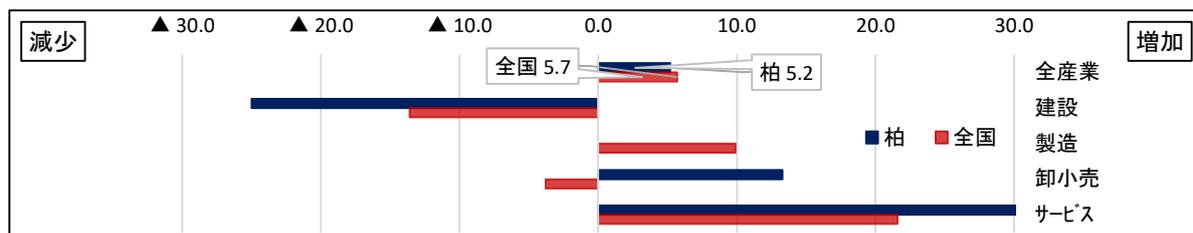
## 【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

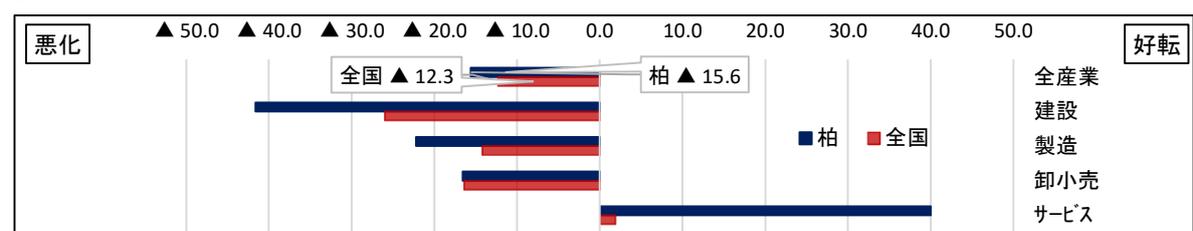
## 【業況D I】



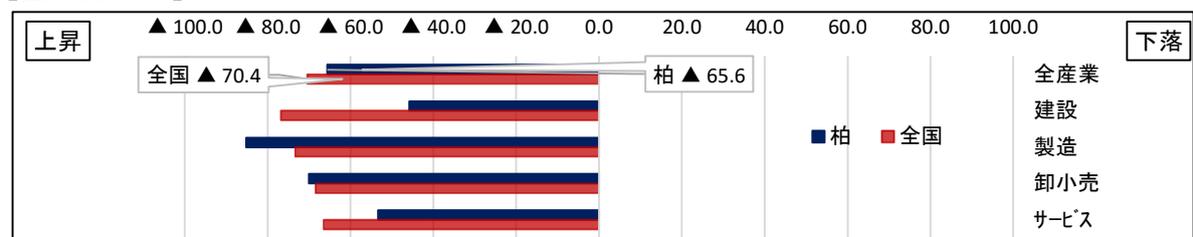
## 【売上D I】



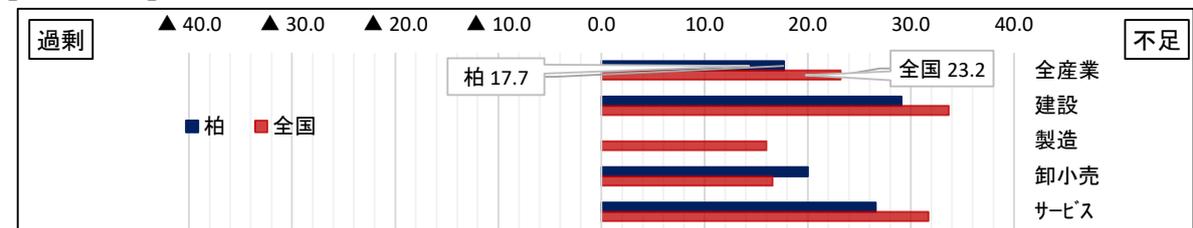
## 【採算D I】



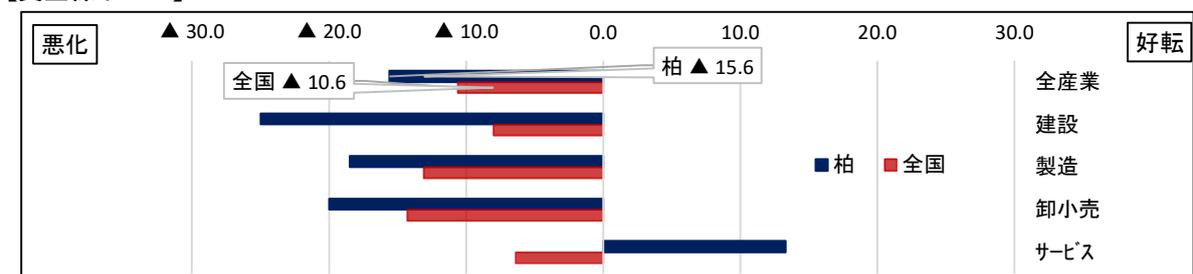
## 【仕入単価D I】



## 【従業員D I】



## 【資金繰りD I】



## 【業種別】業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	材料費高騰が続いていることもあり、これ以上の値上げになる前に工事を発注しようとする方が増えているように感じます。 値上げの波がいつ終わるか判りませんが、値上げが続くと受注の量はもっと増える気がします。	塗装工事業
	カード決済だけでなく、PayPay決済も導入。畳小物販売は好調ですが、畳工事受注が相変わらず少ない。	畳工事請負・畳製造販売業
	世界的に金利上昇のせいか、経済がだいぶ悪いです。輸出業なので真っ先に分かりますが、相当不味い状況だと思います。国内のみの営業の皆さんも遠からず影響を受けると思います。	電気工事業
	仕事の依頼はあるが、従業員の不足により受けきれない 仕入れ単価はまだ上がり続けているため 利益は無いに等しい 受注先に単価の値上げを依頼するも、良い返事は戻ってこない	とび
	年度が変わって数か月は、毎年こんな状況。	den電気工事業
製造業	医療品容器の受注は順調だが、化粧品容器に関してはコロナが落ち着いた現在でも回復傾向が見られない。	プラスチック加工
	コロナ禍、半導体不足、原材料や電気料金の高騰など負の要因が重なり、依然として苦しい経営状況が続いている。	電子応用装置製造業
	海外から多くの方がお買い物をして下さって 弊社の製品の売上に多くの影響が出ている	その他のプラスチック製品製造業
	半導体不足の影響が一部では改善傾向にあるものの未だ解消に至っていないものが多い中、原材料の値上げ等があり採算としては悪化傾向にある。	その他の機械・同部品製造業
	ユーザーの過剰在庫が一段落し、精算・受注も戻り始めている。 社内の紙媒体からデジタル化(出退勤管理等)で作業の効率化を図っている。	その他の鉄鋼業
	単発的な受注ではあるが、久しぶりに好転した月だった。 今後においても地域経済の活発的な以動きに期待したい。	印刷業
	自動車関連の仕事は回復しつつあるが、建築関連は厳しい市況。コロナが明けて営業活動は活発化しているが、まだ売り上げ回復には至っておらず、先行きもわからない状況。一部材料の仕入れがエネルギーコストによる値上げをしている。賃上げは、多少ながら世の中の流れで実施した。	その他の化学工業
	年頭よりトレンドとして良い方向に行くような話があったが、一向に(半導関連)受注が上がらない。 3月末までは特に自動車は好調	金属素形材製品製造業
年度末(3月)の売上は前年より良かったが、4月はGWを前に売上が急激に鈍ってしまった。4月から多くの商材が値上げとなった為に、3月中の買い込みもあり、売上が低迷した。客先もGWを長く休む所が多く、早くから休みモードに入った為に、売上げ減に拍車をかけた。	自動車付属品製造業	
	先月に引き続き、旅行や外出関連は好調。移動が可能になった為なのか母の日は配送ギフトが減少。電気代の高騰により厳しい状況は変わらない	大型小売店
	売上は上がっているが、主原料の値上げが痛い。	洋菓子店

## 【業種別】業界内トピックス

卸・小売業	原材料高騰に歯止めがかからず、これ以上価格に転嫁できず苦しい状況に。	洋菓子店
	好天のGW、5/8以降のコロナ5類への引き下げなども後押し、行楽需要のアップ、旅行関連や店内軽飲食などが好調に推移。	百貨店
	*制限緩和により多少の値上げも受け入れられている。仕入れ値さえ落ち着けば以前の状態にかなり近づく。	その他の各種商品小売業
	すべての物品サービスが値上がりしているので弊社販売商品サービスに関しても価格改定を随時行っているが棚卸やキャッシュフローを確認し決算までの着地点を修正しながら動かないといけない。需要は創出できるかもしれないが価格だけの価値にとらわれず継続的な商売を心掛けたい。	食料卸売業
サービス業	夏期講習の募集が始まるが、光熱費、教材費、人件費の上昇分を価格転嫁したため、在塾生の受講率や外部からの問い合わせに影響が出ることが心配。	学習塾
	コロナ5類移行で、大人数での歓送迎会增加。食材の仕入や電気代の高騰が続いているため、販売価格も値上げせざるを得ない状況。	飲食店
	地区15年の収益物件の大規模修繕を実施、相応の出費となりますが、契約を見直し今後は増益の見通しとなっています。	不動産賃貸・管理業
	計画アドバイスの顧問業に付き金銭のやり取りなく景況の変動なし	その他の技術サービス業

# 調査要領

回答期間

令和5年5月23日 ~ 令和5年6月5日

調査対象

柏市内143業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	143	96	67.1%
建設	34	24	70.6%
製造	36	27	75.0%
卸・小売	42	30	71.4%
サービス	31	15	48.4%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

## ※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

## ※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				